

## ■編著者紹介

### 【編著者略歴】

#### 鈴木 健二 (すずき けんじ)

1999年東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了後、東京大学生産技術研究所、フランス IEMN を経て、2001年ソニー株式会社に入社。現在、東京科学大学データサイエンス・AI 全学教育機構特任教授、名古屋大学数理・データ科学・人工知能教育研究センター客員教授、情報・システム研究機構人工知能法学研究センター客員教授、ソニーグループ株式会社 Principal Researcher。在職中に中央大学法学部卒業、社会構想大学院大学実務家教員養成課程修了、筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院ビジネス科学研究群法学位プログラム（博士前期課程）修了。横浜国立大学、山梨大学、奈良先端科学技術大学院大学、文教大学、東京都市大学においても講義経験を有する。専門は、AI ガバナンス、AI 倫理、情報法、知的財産法、人工知能。2023年、AI for Content Creation Workshop CVPR2023 Best Paper Award、人工知能学会全国大会優秀賞を受賞。著書に、『なぜ社会人大学院で学ぶのかⅡ—人生100年時代の学び直し—』（共著）（アメージング出版、2025年）、『少ないデータによる AI・機械学習の進め方と精度向上、説明可能な AI の開発』（共著）（技術情報協会、2024年）。博士（工学）、修士（法学）。

担当：序論、第2章、第5章、第6章、第7章、第9章、第10章、第13章、第14章、コラム1、2、3、5、6、7。

### 【著者略歴】

#### 新田 克己 (にった かつみ)

1980年東京工業大学大学院理工学研究科電子物理工学専攻博士課程修了。工学博士。同年、工業技術院電子技術総合研究所（現、産業技術総合研究所）に入所。1988年弁理士試験合格。1988年から1992年まで（財）新世代コンピュータ技術開発機構に出向。1996年東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻教授、2016年同大学情報理工学院教授を経て2018年同大学を定年退職。名誉教授。現在、東京科学大学データサイエンス・AI 全学教育機構特任教授、情報・システム研究機構人工知能法学研究センター特任研究員。専門は「人工知能と法律」、「人工知能とのマルチモーダル対話」など。2014年人工知能学会業績賞を受賞。人工知能学会フェロー。

担当：第1章、第3章、第8章。

## 市川 類 (いちかわ たぐい)

1988年東京大学教養学部基礎科学科第二卒業、1990年東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了。1997年マサチューセッツ工科大学技術・政策プログラム修士課程修了。2013年政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策プログラム博士課程修了。博士（政策研究）。専門は、技術・イノベーションに係る社会制度、政策論。特に、デジタル・AI政策論、AIガバナンス政策論。1990年通商産業省（現経済産業省）に入省し、その後30年以上にわたって、各種の技術・イノベーション政策、また、近年はデジタル・AI政策に従事。2013年内閣官房 IT 総合戦略推進室内閣参事官、2017年産業技術総合研究所 AI 研究戦略部長等、2020年一橋大学イノベーション研究センター教授。2023年に経済産業省を退職し、現在、東京科学大学データサイエンス・AI 全学教育機構特任教授、科学技術振興機構研究開発戦略センターフェロー。

担当：第11章、第12章。

## 山田 寛章 (やまだ ひろあき)

2016年早稲田大学法学部卒業後、2021年東京工業大学情報理工学院情報工学系博士課程修了。博士（工学）。日本学術振興会特別研究員（DC2/PD）、東京工業大学（現、東京科学大学）情報理工学院助教を経て、2026年より東京都立大学システムデザイン学部情報科学科准教授、現在に至る。専門は自然言語処理並びに法律情報処理。

担当：第4章、コラム4。